

第1回四日市市幼稚園・保育園のあり方検討会議 議事概要

日 時：平成26年11月19日（水）
午後6時30分～午後8時
会 場：市役所11階 職員研修室

(1) 検討会議の運営等について

事務局から資料1について説明

(2) 四日市市における幼稚園と保育園の現状について

事務局から資料2について説明

○質疑応答

【 委 員 】

- ・設置要綱第3条3項に基づき、会長の職務代理を決めておくべきではないか。
- ・総務省から、「公共施設等総合管理計画」を策定するように通達があったが、施設の有効活用ということで、合築の検討もしていかなければならない。市として、公共施設全体のアセットマネジメントを検討していく場はあるのか。公立の幼稚園・保育園だけを取り出して検討すると、他の施設との有効活用が検討し難くなるのではないか。
- ・今後の会議開催の日程調整は出来るだけ早めに行っていただきたい。

【 会 長 】

- ・会長が欠けることがないよう努めたい。欠ける事態となった場合には、事務局と調整する。

【 事務局 】

- ・市全体の公共施設のアセットマネジメントは大きな課題であるが、長寿命化という観点から積極的に対応している。施設の有効活用という点については、教育委員会が小学校の適正配置について検討を進めており、一例ではあるが、学校統合により遊休化している旧東橋北小学校を児童館や幼保一体化園として活用する計画を議会に提案しているところである。
- ・会議開催のスケジュール調整については、早急に対応させていただく。

【 委 員 】

- ・会議の目的として「適正な教育・保育の提供体制を確保するため」とあるが、就労家庭の0・1・2歳児を中心に提供体制の確保を検討するのではなく、在宅の0・1・2歳児の支援をどう手厚くしていくのかセットで議論していただきたい。3・4・5歳児プラス0・1・2歳児の家庭教育をどう支えていくのか、その議論の場をぜひスケジュールの中に盛り込んでいただきたい。四日市で子育てしたいと思ってもらえるような施策をこの会議で議論し練り上げてほしい。

【 会 長 】

- ・単に数字だけで論じていくのではなく、市全体の動きも見ながら、それぞれの立場で意見を出していただければ良い方向に進むのではないかと考える。

【 委 員 】

- ・公立幼稚園では、地域の特性や幼児の発達に合わせた、職員が議論をしながら教育を展開し、遊びを通しての学びを一番にと考えて保育をしている。子どもとの時間を大切に、十分に子どもと触れ合いたい、子育てを共に考え成長し合いたいという思いから、保護者の方々に公立幼稚園が選ばれているという点を大切にしていきたいと考えている。

【 委 員 】

- ・橋北地区の幼保一体化園については、あり方検討会議で議論がないまま、別のところで話が進んでいる。本来ならば、全体構想の中で議論が必要ではないか。認定こども園と幼保一体化園との違いについて、課題や子どもにとってどちらが良いのかといったことを知りたい。幼保一体化園の様子を聞かせていただきたい

【 委 員 】

- ・保護者側から見ると、幼稚園と保育園で籍が違う、帰りの時間が違うという程度で、行事は全て一緒、給食も一緒である。子どもはどう感じているのかと思ったが、幼稚園には夏休みがあるが、そういう点も子どもはあまり不思議に思っていないようだ。

【 委 員 】

- ・一体化園になる前には、年間50回以上の交流保育を行った。幼稚園の職員が保育園に出勤し、カリキュラムの検討も一緒に進めた。保護者対象にアンケートも数回実施した。職員としては、混在クラスを経験した。幼稚園における4・5歳児だけの4・5歳児と、保育園での1歳から5歳児の中の4・5歳児の違いなど、幼稚園・保育園ともに職員が広い視野が持てたと総括している。
子どもたちがどう感じるのか懸念したが、結果としては、大人が心配するよりも子どもの方が柔軟であった。

【 委 員 】

- ・成果としては認定こども園と同じ。認定こども園の方がもっと効果があるように思う。職員体制にしても、例えば4・5歳児の担当が1・2歳児の担当になることがある。縦のつながりの学びという点からは、認定こども園の方が子どもにとってより良いのではないかと考えている。先ほど橋北地区の話が出たが、国も認定こども園を勧めている中で、幼保一体化園にこだわるのはなぜか。

【 事務局 】

- ・橋北地区については、この会議の結果を待つのが望ましいと考えている。しかしながら、橋北幼稚園については、施設の耐震という問題があり、子どもに安全な施設を確保するため、

旧東橋北小学校の活用を提案している。ただ、幼保一体化園でということはまだ決定しているわけではない。この会議で議論していただき、今後、小規模化してきた幼稚園、立地的な課題がある保育園などトータルに考えていただきたい。その結果をもって、オープンにつなげていきたい。

【 会 長 】

- ・現状についてそれぞれ意見を出し合って、そこから見えてくるものを一步前へ進めていきたい。『四日市市子ども・子育てに関するアンケート調査』の結果をみると、幼稚園の場合は「子どもの教育や発達のために預けたい」という人が6割くらいあり、保育園の場合は「就労しているから利用したい」という人が5割くらいある。それに対して、認定こども園の場合は、「就労しているから」「これから就労したいと考えているから」「子どもの教育や発達のために預けたいから」という理由で利用を希望している人が平均して20%ある。これからの方向性として、ひとつの選択肢になっていると感じる。

【 委 員 】

- ・「適正な教育・保育」の「適正な」とは具体的にどういうことか？
- ・経営という点から質問したい。楠南幼稚園は定員に対する割合が12.9%とあるが、職員は何名か。

【 事務局 】

- ・「適正な」とは、まず、子どもの集団の規模を確保していかなければならないという点がひとつある。就学に向けて子どもが育ちの力をつけていくには、ある程度の集団の規模が必要となってくる。また、集団の規模のほかに、適正な配置として、地域的なバランスもひとつ考え方の中に必要となってくる。
- ・楠南幼稚園の職員は、園長、担任1名、4・5歳児混合クラスの副担任1名、年度によって人数は異なるが特別支援の加配職員、そのほかに用務員1名である。

【 委 員 】

- ・楠南幼稚園にかかる経費はどのくらいか。

【 事務局 】

- ・幼稚園・保育園では人件費が約8割強であり、この園の運営には2千万円強かかっている。

【 会 長 】

- ・幼保小の連携と言われる中、小学校から見て幼稚園や保育園との関係は現状ではどうか。

【 委 員 】

- ・近隣の公立園と、授業や保育の見学を年に数回、入学までに必要なことなど話し合いを年に5回程度行っている。交流しながら、ひとつひとつ具体的な話し合いを行っている。

【 会 長 】

- ・子どもの発達の連続性を考えると、保育園・幼稚園から小学校へと生活環境が変わる中での子どもの戸惑いは大人が想像する以上のものがある。逆に新しい発見もずいぶんある。子どもの発達の連続性を保証していくということでは、小学校と幼稚園・保育園との連携はもっと進めていくべきだろうと考える。また、子どもは地域の中で育つので、安全の確保という面でも、小学校・幼稚園・保育園が協力して子どもを守っていかなければならないと考える。

【 委 員 】

- ・園では担任の先生以外に加配の先生にも時間をかけて丁寧に関わってもらえた。一緒に登園する道で地域の人とあいさつも出来るようになり、公立ならではの「歩いて通う」という良さがあったと思う。体力もついた。傘をさして歩くという経験なども小学校に入学するまでの良い練習になった。公立は4歳児・5歳児であるが、保護者の間では、3歳児から入ることが出来れば良いのだがといった話を聞く。

【 会 長 】

- ・子どもにとってどうなのかという議論を進めていかないと先に進まない。今の意見のように、公立と私立のそれぞれの良い点について、感想も含めて率直に意見を出し合いながら、共通の認識を持ってひとつの方向性を出したい。
- ・資料にある幼稚園・保育園の配置図を見ると、特定の地域に固まっている。人口の動態があって配置の多少が起こるといふ辺りも、今後のあり方を考えていかなければならない。生活に便利な場所に集まるのはやむを得ないが、そのことで通園しにくい子どもがいないように適正に考えていかなければいけない。親の就労如何にかかわらず、子どもたちの生活の場を守っていかなければならない。その子どもにとってどうなのかということが大切である。子どもの目線で意見を聞かせてほしい。

【 委 員 】

- ・小1プロブレムの課題がますます大きくなるだろう。私立幼稚園の子どもは、私立の小学校に進む場合もあれば公立の小学校に進む場合もあり、公立の小学校の授業を経験できる地区もある。しかし、幼保小の連携の中で協議していくとき、私立幼稚園が入らないという現状が四日市市にはある。これはひとつの課題であり、統廃合も含めたときに、どの園とどの園を連携させていくのかといった構図もこれから議題になるだろう。

【 委 員 】

- ・私立幼稚園から公立の小学校に進む場合、子どもとしては、それぞれ異なる学校に入学するため、今の友達と別れることになり、寂しいだろうと思うが、新しい友達が増えるという良い面もある。同じ学区の友達ができれば遊びやすくなるのではないかと思う。
- ・会社の敷地内や近くに園があれば、一緒に登園し一緒に帰ることが出来て良いのではと思っている。市内の事業所内保育所の件数を知りたい。

【事務局】

- ・施設の大小はあるが、現在、市内に14施設ある。主に病院内の託児施設である。

【委員】

- ・一般企業が開設しようとする市での承認が必要なのか。手続きが大変だから企業が開設しないという面はないのか。

【事務局】

- ・設置するかどうかは事業所の考え方であり、認可については、現在は県が認可者になっている。しかし、新制度によって、地域の子どもも受け入れる場合は、市が認可者となる。事業所内保育のあり方については、新制度の中に含まれているので、場合によっては議論をお願いしたい。

【委員】

先日、鈴木知事が訪問した企業でも、事業所内に保育所があれば良いのだがといった意見が出たと聞いた。同じような考えの方はいるのだと思う。

【会長】

- ・事業所内保育については、これから新制度の中で発展していくのではないと思う。
- ・今日の会議では、四日市市の幼稚園・保育園の現状について、ある程度共通認識を持てたと思う。基礎データも事務局から提示してもらった。今後はそれらをベースにしながら、新たな方向性について話し合いを進めていきたい。2回目以降は、具体的な事項について事務局でさらに資料を準備してもらい、検討を進めていきたい

【委員】

- ・次回の会議に基礎的な資料を3点用意していただきたい。1点目は園の職員の配置状況について。公立は経営を度外視して児童を受け入れている部分もあるだろう。特別支援の加配の状況も含めて配置状況を知りたい。2点目は病児保育や延長保育などの実施状況について。延長保育を実施している園は人気があるのかなど分かると議論がしやすいと思う。3点目は人口の推移について。施設のことを考えると、長寿命化して維持していくのか、建て替え更新するのか、より先まで人口の見通しを持ってあり方を考えなければならない。10年先、20年先の人口の推移が分かれば考えやすくなるのではないと思う。

【事務局】

- ・より具体的な議論をしていただく基礎データとなるので、可能な限り準備させていただく。人口の推移については、四日市市全体であれば可能であると思うが、地区別には難しいかもしれないが検討する。